

# 図書館だより

平成22年12月



島根県立図書館報 第191号

## 主な内容

- 巻頭言 ..... 1
- 海士町中央図書館オープン ..... 2
- 「学校図書館活用教育図書」が整備されました ..... 2
- 「この本いいよ!!」 島根の高校生・高生がすすめる一冊を展示しました ..... 2
- 館内資料展示コーナー ..... 3
- レファレンス事例紹介 ..... 3
- おしらせ・利用案内 ..... 4

※行事予定は、カウンターでお渡しします。

## 「子ども読書県しまね」で伝えたいこと

島根県知事  
溝口 善兵衛

私は、何かよく知りたいことがでてくると、図書館によく行きます。知りたいことが特定している場合は、インターネットで調べれば大体の事はすぐわかりますが、何かヒントを得たいときとか、自分にはない考えや違ったアイデアを見たいときなどには、図書館の棚で目につく本をパラパラとめくるのがいいのです。

まず、関係がありそうな本を5～6冊借りて読んでみて、次にその中で引用されている本をさらに借りて読んでいるうちに、相当程度、自分が求めているものに出会うことができます。

こうした「図書館で調べる」、「本で調べる」という作業は、知りたい部分だけでなく、その周辺にも関心や好奇心を拡げてくれて視野が拡がり、ものをよく考えることに役立ちます。

多くの人が、「読書は大切だ」と考えています。しかし今日では、テレビ、ゲーム、DVDなどが身の回りにあふれていて、若い人たちの本離れが進んでいます。映像には、物事を直接伝える力があり、見ていてわかりやすかったり、見る人をひきつけるのですが、子どもの自由な想像力を育てるには刺激が強すぎる場合があります。

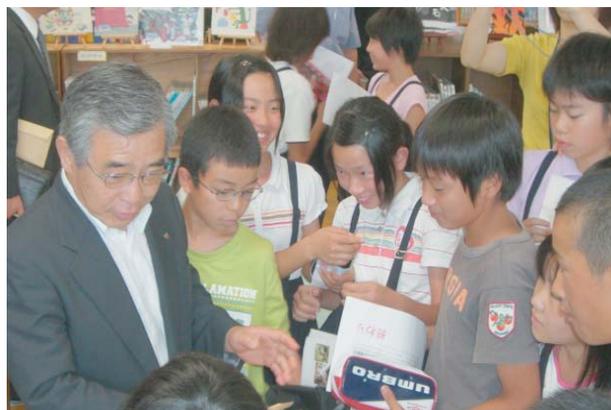
本の場合は、ゆっくり時間をかけて読まないとう理解できませんし、よくわかるためには読む人の想像力を必要とします。想像力は、文字で表現されてい

る世界を自分の頭の中で思い描く力で、考える力を生み出すためのエネルギーのようなものです。

未知なるものへの関心を引き起こし、自分の世界や物の見方を拡げてくれる本に出会うことは、子どもが心豊かに成長する上で、大変、大事なことです。子どもたちがそうした本に出会う環境をつくることは、私たち大人の仕事です。

県では、子どもたちが本に親しむ取り組みとして「子ども読書県しまね」の運動を進めています。今、島根の図書館は、司書の皆さんの努力により、子どもたちが目を輝かせながら本を開き、読書を楽しむ場に大きく変わってきています。

これからも、本に親しむことの素晴らしさを子どもたちに伝えていきたいと考えています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



「東出雲町立揖屋小学校にて」



平成24年10月25・26日  
全国図書館大会島根大会 (松江市) 開催!

# 海士町中央図書館オープン！！

平成22年10月に、海士町中央図書館が開館しました。海士町は人口約2400人、日本海に浮かぶ小さな島です。

町では、平成19年度に「島まるごと図書館構想」がスタート、まずは、司書を中心としたスタッフが、保育園、小学校、中学校、高校に出向き、先生方と協力して、図書館をリニューアルしました。「図書館大好き」と言ってくれる子どもたちも大勢いて、評判は上々、利用率も大幅アップしました。学校図書館に続いて、町の読書環境を整えました。中央公民館の図書室を整備、保健福祉センターやフェリー待合所など人の集まる施設にミニ図書館（分館）を設置、健康相談と一緒に地区公民館へ出かけて、本の出前貸出を実施したりと、だれもが身近に本のある環境を作り出しました。



「住民手づくりの木製書架が並ぶ図書館」

ほとんどの島民が顔なじみの海士町で、誰にどんな本を紹介したら良いかわかる司書がいるからこそ、この構想は実現化に向けて動き始めました。中央図書館の完成によって、一層島民の読書熱が高まることでしょう。合わせて、島民の暮らしや地域づくりに役立つ情報拠点となるよう期待されています。

## 「学校図書館活用教育図書」が整備されました

「子ども読書活動推進事業」の一環として、整備を進めておりました「学校図書館活用教育図書」が、平成22年10月、県立図書館1階子ども室前の書架に並べられました。

小学校1年生から中学校3年生までの義務教育課程の中で、授業に活用できる図書を約2000冊、モデルとして選定、購入しました。今後、学校図書館活用教育を推進していく上で、各学校や市町村の図書館が図書購入の参考としたり、司書や教諭が実際に手にとって利用されることを期待しています。

## 「この本いいよ！」

### 島根の高校生・高専生おすすめの1冊を展示しました。

今秋、県内の高校生、高専生から、おすすめする本の紹介コメント・イラストをお寄せいただきました。投稿された作品は197点、この中から20点を選び、読書週間（10月27日～11月9日）中に、紹介された本と一緒に展示をしました。手に取って、「読んでみたい」と貸出予約をされる来館者が大勢いらっしゃいました。「読んでみて」と「読んでみたい」が繋がる場となりました。



## 館内資料 展示コーナー

お勧め  
したい本

県立図書館では毎月テーマを決めて資料の展示を行っています。9月から11月に展示した資料の中から、皆さまに是非読んで頂きたい本を紹介します。

※展示リストはホームページからもご覧になれます。

※URL: <http://www.lib-shimane.jp>

### 9月テーマ 「古事記」の世界～古事記編纂千三百年紀にちなんで～

#### 『神々と歩く出雲神話』

藤岡大拙／著 出雲学研究所 2010年刊

『古事記』に記された神話のうち三分の一が出雲の地に由来することから、島根県は「神話のふるさと」といわれています。古事記のほかに『日本書紀』、『出雲国風土記』に記された5つの出雲の地を、分りやすい原文訳と解説、地図、写真で迎えます。

#### 『本居宣長「古事記伝」を読む』

神野志隆光／著 講談社 2010年刊

『古事記』が今日でも着目、研究がされるようになったのは、江戸時代中期の国学者・本居宣長の功績といわれています。江戸時代から今日まで多くの研究者を引きつけ、不朽の名著といわれる研究書『古事記伝』を読み解きます。

### 10月テーマ お雇い外国人の足跡

#### 『お雇い外国人』

梅溪昇／著 講談社 2007年刊

幕末から明治にかけて、日本の近代国家建設を援助するために欧米諸国から招聘され、雇用されたいわゆる「お雇い外国人」の役割や実態を、幾人かの功績を紹介しつつ解き明かしています。

#### 『松江のお雇い外国人たち』

建岡浩子／著 松江市文化協会 2010年刊（『湖都松江 No19』所収）

タートル、ラフカディオ・ハーンなど松江中学の外国人教師を中心に、「ワレット豆」で知られる軍人ワレット、土木技師バルトン等、松江で招聘された8名のお雇い外国人を紹介しています。

### 11月テーマ 国民読書年によせて 一見つけてください、あなたの一冊

#### 『絶唱』

大江賢次／著 講談社 1960年刊

戦争の色濃い昭和十年代を背景に、封建的であった当時の山陰を舞台にして描いた、山番の娘小雪と大地主の一人息子順吉の悲恋物語です。昭和33年以来、何度か映画・テレビ化され、見た人の年齢により、主人公を演じた俳優のイメージで記憶に残っていると思います。

#### 『ファールルの昆虫記』

アンリ・ファールル 大岡信訳

皆さんのまわりにいる大人の多くは、少年少女時代に、この本をきつとむさぼるように読んだことでしょう。そして、今、詩人であり評論家である大岡信さんの新しい翻訳で、すばらしいファールルの『昆虫記』と出会うことができます。

## レファレンス事例紹介

こんな問い合わせがありました

**Q** 孫文が「中国人は砂のような民族だ」と言った時期と出典を知りたい。

**A** 1924年1月27日に、「三民主義」第一講の中で、「外国の傍観者は、中国人をばらまかれた砂だという。その理由はどこにあるのか。中国の一般人民には、家族主義と宗族主義があるだけで、国族主義がないからであります。」と述べています。「砂のように自己中心でばらばらな国民性である」という趣旨で述べたようです。

#### ●参考資料・調査済み資料

『孫文選集 第一巻』（孫文著、社会思想社、1985年）  
資料番号：912033798.P20に掲載。

**Q** 横山大観が、明治から大正期に島根県に来たようだが、それはいつのことか。

**A** 島根県立博物館が発行した「博物館ニュース」No.39～41号（昭和59年～60年）に、『横山大観の山陰来遊について』という記事があります。この記事によると、横山大観は山岡米華と共に明治43年8月20日に松江にやってきて、約2週間滞在していました。当時の新聞記事や松崎水亭の宿帳などが紹介されています。

この滞在中に描かれた作品に「宍道湖真景図」という水墨画があり、島根県立美術館に所蔵されています。

#### ●参考文献

『博物館ニュース』No.41 島根県立博物館 1985年  
『グラフまつえ』vol.16 松江市 2003年  
『湖都松江』vol.16 松江市文化協会 2008年  
『山陰新聞』『松陽新報』1910年8月



# 「クリスマス会」



**日時** 平成22年12月25日(土) 14:00~15:00

**場所** 島根県立図書館 集会室

- 内容**
- (1) ハンドベル「きよしこのよる」
  - (2) 大型絵本「ぐりとぐらのおきゃくさま」
  - (3) 紙芝居「よいしょよいしょ」
  - (4) エプロンシアター「おむすびすつとんとん」
  - (5) 人形劇「かに子ちゃんときるどん」
  - (6) うた「あわてんぼうのサンタクロース」

**対象** 幼児、小学生低学年(参加自由、無料です。)



問い合わせ先 島根県立図書館こどもしつ: Tel(0852)22-5746

## 絵本ワールド in しまね開催のお知らせ

**日時**▶平成23年1月29日(出)、30日(日) 午前10時から午後4時まで。

**場所**▶「フローラいずも」(出雲市西新町2丁目2456-1)

**内容**▶絵本作家・松岡達英氏(29日)、絵本作家・あきびんご氏(30日)の講演、絵本の展示、読み聞かせ、ストーリーテリング、人形劇など。参加無料。講演は申込みが必要です。



問い合わせ先▶山陰中央新報社広告局企画部(電話0852-32-3385)

### 開館日カレンダー



平成22年、23年

**12月** 展示: ピアノ詩人 ショパン

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

**1月** 展示: 日本の城—日本100名城を中心に

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	30	24	31	25	26	27
				28	29	

**2月** 展示: 仏像を鑑賞しよう

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

■黒字...9:00~18:00 ■青字...9:00~17:00  
■赤字...休館日

### 読書普及指導員を派遣します

保護者参観や職員・ボランティアの方の研修会等で、親子読書や読み聞かせの基本的な考え方やポイントなどお話しします。お問い合わせ 子ども担当(0852-22-5746) または西部読書普及センター(0855-23-6785)まで。

### お近くの市町村図書館を通して貸出します

すべての県民の皆さんに県立図書館の資料を利用してもらうため、市町村の図書館などを通して資料の貸出を行っています。  
①県立図書館に求める資料があるかどうかは、インターネットの蔵書検索(県立図書館HP)や、電話での問合せ(0852-22-5748)またはお近くの市町村図書館までおたずねください。  
②借りたい資料が決まりましたら、お近くの市町村図書館(図書館未設置の5町村は中央公民館等)へお申込みください。週1回市町村図書館等へ発送します。

### 郷土資料収集のお願い

島根に関する資料(古いものも、新しいものも)を収集・保存しています。ご寄贈、情報のご提供をお願いします。

### 利用案内

- 開館日時間 火曜日~金曜日 3月~10月 9時~19時  
11月~2月 9時~18時  
土曜日・日曜日・祝日 通 年 9時~17時
- 休館日 毎週月曜日(祝日にあたるときは開館)・第1木曜日  
年末年始 12月28日~1月4日・特別整理休館

※詳しくは開館日カレンダーをご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.lib-shimane.jp>  
編集発行 島根県立図書館 〒690-0873 松江市内中原町52  
TEL 0852-22-5725 FAX 0852-22-5728

発行日 平成22年12月10日